

キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2021年12月 [第96号]

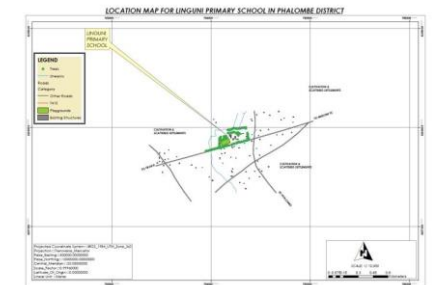
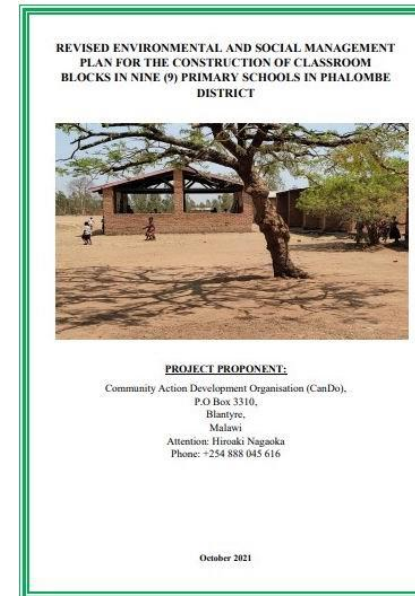


Table 4-1: Potential Interaction Matrix

Project Component	Anticipated Environmental and Social Impacts									
	SES 1	SES 2	SES 3	SES 4	SES 5	SES 6	SES 7	SES 8	SES 9	SES 10
SN 1 Project activity/phase										
1 Planning Phase										
1.1 Design of Proposed Structure										
1.2 Obtain necessary Approvals										
2 Construction Phase										
2.1 Land Use and Land Clearance										
2.2 Excavation and Civil Construction										
2.3 Equipment/Material Worker Transport										
2.4 Waste Storage and Disposal										
2.5 Construction Workers Presence										

活動の方向性 **日本人駐在を再開しました** 永岡 宏昌  
 ブランタイヤ便り **新型コロナウイルス感染症の現状** 永岡 宏昌  
 報告 **建設リーダー研修(全4回)の内容** 宇野 由起信  
 報告 **マラウイでの活動—2021年9月~11月—**

11月29日、新型コロナウイルス感染症に関して「検疫所の宿泊施設での10日間待機措置」の対象となった、南部アフリカ10か国のこと



フォト・レポート **環境社会管理計画(ESMP)策定の現地調査**  
 事務局から

写真は ESMP の表紙、初等学校の地図、相互作用の分析

## 日本人駐在を再開しました

代表理事 永岡 宏昌

2021年9月下旬に、1年5か月ぶりに永岡がマラウイに出張し、その後、駐在する日本人スタッフ2名も到着しました。それまでコロナ禍で、日本人スタッフが遠隔からの参加しかできないなかで、マラウイ人スタッフがさまざまな連絡調整をしながら、工夫して意欲的に事業を進めてきました。

2019年4月、コロナ禍で緊急帰国する前は、週末にブランタイヤ事務所で週例会議を開いていました。日本人スタッフとインターンが、活動スケジュールを話し合い、マラウイ人スタッフと専門家の配置を決めて、携帯電話で連絡をとります。翌週の各人の交通費や手当を計算し、金庫から現金を出して、封筒詰めします。月曜日に車両で現場に入って、手渡ししていました。

コロナ禍の下では、週日は毎日、日本とミゴウイ(パロンベ)事務所、ブランタイヤ事務所をオンラインでつないで会議を行ってきました。活動と人員配置を考えるのはマラウイ人スタッフです。各人がパソコンやタブレットを使って、エクセルで毎週の経費を日本人スタッフに申請します。その承認を得て、担当するマラウイ人スタッフが携帯電話現金決済(MPAMBA)を用いて各人に経費を送金します。週末にはその週の精算も各人が行なえるようになりました。また、勤務日ではない

週末に、専門家、そして行政官や学校関係者との電話連絡も行なうようになったことで、事業が順調に進みました。

会計面でのコロナ禍前との違いは、事務所の現金での支払いをほとんどなくしたことです。MPAMBA を経由して支払い、その出入金記録をPDFファイルにします。若手のマラウイ人スタッフが、エクセル版の会計帳簿に次々に入力し、会計データの整理は順調に行なわれてきました。

一方、領収書などの取り扱いに問題があったことが、マラウイに戻って判明しました。未回収や不適切な保管、預け金と経費領収書との混同など、領収書に慣れていない、重要と思っていない、と思われる対応が多々ありました。MPAMBA での支払いが中心となつて、現金を渡す機会が少なくなれば、領収書の存在を忘れがちになるようです。今回の出張で、事務所の会計システムを再構築し、適正化を行ないました。さらに、うっかりミスを超える不適切な行為があったことを確認し、事務所として対応しました。

駐在の再開後、他の業務の適正化も行ないますが、過去の形に戻るものではありません。コロナ禍でマラウイ人スタッフが担ってきた役割を尊重し、自律的に取り組む活動の部分を発展させていきたいと考えています。

## ブランタイヤ便り

### 新型コロナウイルス感染症の現状

永岡 宏昌

2020年初頭に、恐ろしい新型コロナウイルスが広がっているというニュースを、マラウイの人たちも聞くようになりました。政府は、手洗いの奨励、公共バスの乗車人数の大幅削減、学校の休校、国際航空便の停止、国境の封鎖など対策をとりました。人々に強い恐怖感があったと思います。また、このウイルスと中国とを結びつけて考えたため、東アジアの人々への憎悪にもなりました。当時、私たちも怒りをこめて「コロナ」と吐き捨てるように罵られることがしばしばありました。南アフリカでの感染者の拡大で、多くの出稼ぎマラウイ人が帰国したことで、十分な防疫体制がとれないまま、国内で感染を拡大させているという不安もありました。

当会では日本人スタッフが20年4月に緊急帰国し、21年9月に派遣を再開するまで、マラウイ人スタッフとネット会議などで事態の動きを確認していました。恐怖感は薄れていったようで、住民もスタッフも、あまり気にせず、予防接種にも消極的なようでした。

今回の日本人再派遣では、憎悪の視線や「コロナ」と呼ばれることもほとんどなくなりました。ブランタイヤ事務所近くの市場に予防接種の車両と宣伝の大型トラックがやってきて大音量で接種を呼びかけるのですが、接

種に訪れる人はほとんどいないようでした。しかし、無関心ではなく、病気になった方や不幸にして亡くなった方の家族が、周囲からコロナ感染とみられ差別・排除されることも起こっています。人々に潜在的な排除意識や恐怖感もあって、何かのきっかけで広がる懸念もあります。

ブランタイヤの街中では、20年4月には入手が困難だった不織布マスクが、今では、路上販売の主な商品となっています。1枚100クワチャ、中サイズのトマト1個分の値段で、多くの販売人が売り歩いていて、買う人も少なくありません。

陽性者数は2021年7月26日がピークで、1か月ぐらいい後は陽性者がほとんど確認されない状況が続いていました。しかし、12月初めから増え始めました(9日、保健省がオミクロン株3件が見つかったと発表)。16日に政府はパンデミック警戒レベルを引き上げました。当会も、感染予防体制を見直し、20日から活動への参加人数の制限、マスク着用、手洗いと検温の励行、事務所が過密とならないように仮事務所の開設などの対策をとりました。12月からの波には、日本人スタッフ2名とマラウイ人スタッフで慎重に取り組んで、乗り越えようと考えています。

## 建設リーダー研修(全4回)

調整員 宇野 由起信

外務省日本 NGO 連携無償資金協力(N連)による「パロンベ県初等学校保護者による教室建設事業」では、30人以上の建設リーダーの参加をSSB(土壌安定化レンガ)の製作開始の条件としています。

倉庫を建設した先行事業の建設リーダーで参加する人数がこの条件を満たさない学校では、新たに選出した建設リーダー候補者を対象として、全4回の研修を実施します。4回の研修で、先行事業のリーダーと修了した候補の合計が30人に満たない場合は、自主研修で対応します。評価が高い建設リーダーが手順書に基づいて説明して、当会スタッフが監督します。

10月、補欠候補校から対象となった学校で建設リーダー研修が終了し、全9校で完了しました。

\*教室棟(2教室と2小部屋)建設では、40人以上の建設リーダーの参加が教室棟基礎・床建設開始の条件となります。2校のうち満たさなかった1校(先行事業から30人以上)では7月に全4回を実施し、完了しました。

全4回の建設リーダー研修の内容は次の通りです。講師は、建設専門家のカタンドゥラ氏とサイジ氏、マチュウィラ氏です。

## □第1回: 現地資材収集と記録

・学校が収集する現地資材—主に、SSB 製作と建設に使用する砂—を説明します。そして、質の良い現地資材が収集できるように研修します。

・当会が供与する資材—セメント・木材など—の適切な保管方法を説明します。

・これらの資材を適切に管理できるよう、記録用文房具を供与し、記録方法について研修します。

## □第2回: 建設技術1

・先行事業で実施した倉庫建設をもとに、教室建設に必要な建設技術について2回に分けて研修します。まず、基礎・床部分の倉庫建設工程を説明します。

## □第3回: 建設技術2

・次に、壁から屋根にかけての倉庫建設工程を説明します。

## □第4回: 施工管理

・建設マネジメントについて説明します。

・倉庫建設の活動計画を振り返ってから、教室建設の基本となる9,000個のSSB作成計画を作成します。

## マラウイでの活動—2021年9月～11月

## —パロンベ県の初等学校における活動

## ◆保護者参加による教室建設

2021年2月、当会は外務省日本 NGO 連携無償資金協力による「パロンベ県初等学校保護者参加による教室建設事業 第1年次」を開始。2020年に倉庫を建設した初等学校13校のうち9校を対象として、2年の事業期間に2校で教室棟(2教室と2小部屋)、7校で1教室の建設完了を計画しています。

保護者の参加度の評価から9校を優先候補校、4校を補欠候補校としました。優先校のうち1校、次に補欠校の1番目の学校が参加はできないということで、9月から2番目の学校が対象に加わっています。

## ■建設リーダー(CL)研修と

## 土壌安定化レンガ(SSB)製作

教室建設では、30人以上のCLの参加が条件です。満たさない学校では、保護者から新たな建設リーダー候補を選出し、建設リーダー研修(全4回)を行ないます。全回出席した候補を建設リーダー研修生に認定します。教室棟に必要なSSB18,900個の約半数、1教室の建設に必要な9,000個を基本のSSBとして、CLは製作の活動計画を立てます。計画の承認後、製作の覚書を締結。基本のSSB製作の中間目標を4000個として製作を開始します。9月、11月に各1校(計5校)

で完了(4校で進行中)。残り5,000個の製作も10月にもう1校(計3校)で完了しました。

## ■教室棟・1教室建設の覚書

教室棟の建設では、40人以上の建設リーダーの参加が条件になります。8月までに2校で教室棟の基礎・床建設の計画が承認され、覚書を締結しました。11月、1校で1教室建設の覚書を締結しました。

## ■教室棟の基礎・床建設を開始

当会では7月に県知事と環境社会管理計画が承認されるまでは建設を開始しないことで合意しました。環境コンサルタントによる調査(p.7参照)後、10月28日に提出された計画は11月8日に承認書が発行されました。

雨期に入って農繁期となる11月、2校で教室棟の基礎・床建設を開始。位置決めをして、溝を掘りをしています。

## ◆子どもの健康を守る保護者の活動

2019年度に開始し、来年3月まで事業期間が延長されたこの活動は、当初、教育局と当会との試験の実施で合意し、教育局長の推薦によりムロンバ教育区を対象としました。11月30日、保健局環境衛生官が積極的に協働を希望し、研修の構成を再検討することになりました。

## 11月29日、新型コロナウイルス感染症に関して

「検疫所の宿泊施設での10日間待機措置」の対象となった、南部アフリカ10か国のこと

オミクロン株を発見した南アフリカ、3年前に改名したエスワティニ―「知っていること」の量はさまざまな、マラウイとその周辺の国々について、簡単に紹介してみます。(編集部)

### ■アンゴラ共和国―首都 ルアンダ

1975年独立/面積 125万km<sup>2</sup>/人口 3,080万人  
ポルトガル領。MPLA(支援は旧ソ連、キューバ)政権とUNITA(同 米国、南ア。財源はダイヤモンド)が内戦(1975年~2002年)。

### ■エスワティニ王国―首都 ムババーネ

1968年独立/面積 2万km<sup>2</sup>/人口 113万人  
16世紀、スワティ(スワジ)人が定着。英保護領。2018年、独立50周年式典で国王がスワジランドから「スワティ人の地」に改名を宣言。

### ■ザンビア共和国―首都 ルサカ

1964年独立/面積 75万km<sup>2</sup>/人口 1,838万人  
1924年、C.ローズ設立の会社が経営する北ローデシアが英国直轄植民地に。25年からカッパーベルトで銅の開発。

### ■ジンバブエ共和国―首都 ハラレ

1980年独立/面積 39万km<sup>2</sup>/人口 1,465万人  
C.ローズの会社経営の南ローデシアから英領。独立後、長期政権(~2017年)。2000年代、ハイパーインフレで経済が極度に混乱。

### ■ナミビア共和国―首都 ウイントフック

1990年独立/面積 82万km<sup>2</sup>/人口 245万人  
独領南西アフリカ(英領のウォルス・ベイ港

周辺を除く)。1920年、南アフリカの委任統治領。46年から南アが不法統治。

### ■ボツワナ共和国―首都 ハボローネ

1966年独立/面積 58万km<sup>2</sup>/人口 235万人  
英国保護領。1967年、ダイヤモンド鉱床発見。2013年、DTC(ダイヤモンド・トレーディング・カンパニー)本社がロンドンから移転。

### ■マラウイ共和国―首都 リロングウェ

1964年独立/面積 12万km<sup>2</sup>/人口 1,862万人  
英国保護領。1953年、ローデシア・ニヤサランド連邦。南・北ローデシアに労働力を提供。2020年、大統領再選挙で野党候補が当選。

### ■南アフリカ共和国―首都 プレトリア

1910年独立/面積 122万km<sup>2</sup>/人口 5,778万人  
オランダ人が入植。英領。人種隔離政策を実施。94年、全人種参加の選挙でマンデラ政権設立。鉱物資源も工業力もアフリカ1。

### ■モザンビーク共和国―首都 マプト

1975年独立/面積 80万km<sup>2</sup>/人口 3,036万人  
ポルトガル領。FRELIMO が武力闘争。独立後、MNRと内戦(~92年)。2020年、日本の農業開発事業(ブラジルと三角協力)中止。

### ■レソト王国―首都 マセル

1966年独立/面積 3万km<sup>2</sup>/人口 210万人  
バスタ王国がアフリカーナーの脅威から保護を求めて英領に。1998年、政情不安定にSADC(南部アフリカ開発共同体)軍が介入。

主な出典: 外務省ホームページ

## フォト・レポート

### 環境社会管理計画(ESMP)策定の現地調査

マラウイ環境保護庁から指示された環境社会管理計画(ESMP)策定のため、マラウイの環境コンサルタント、Environmental & Social Research Consulting(ESRC)が9月27日~29日、教室建設の対象となる初等学校9校の現地調査を実施。永岡宏昌が参加しました。



砂の採取場所を確認―クランベ校



教員との話し合い―ミレメ校



砂の採取場所を確認―ミレメ校



砂の採取場所を確認―ミンガンボ校



生徒から聞き取り―ナゾンベ校



建設リーダーとの話し合い―クランベ校

調査後、ESRCの専門家5人がESMP(全130ページ)を1か月で作成。10月28日、当会がマラウイ環境保護庁に提出しました。

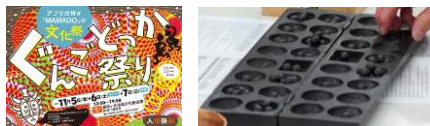
## 事務局から

### 報告

#### ◇国内活動

○10月9日、10日、グローバルフェスタ JAPAN 2021 にオンラインで出展。

○11月5日～7日、東京・雑司ヶ谷地域文化創造館で開催された「ぐんごどっか祭り」(MAMADO主催)の遊びのコーナーにおいてマラウイのルールで「パオ」を紹介しました。



#### 人の動き ~12月15日

○9月24日、代表理事(兼 事業責任者)永岡宏昌がマラウイに出張。

○11月1日、準スタッフとして浅利有紀(あさりゆき)が在宅で勤務を開始。

○11月17日、調整員 宇野由起信をマラウイに派遣。

○12月1日、浅利をマラウイに派遣。

### お知らせ

#### ■12月24日～2022年1月10日

#### 台東区地域活動団体パネル展に出展

台東区生涯学習センター1階アトリウム

(東京都台東区西浅草 3-25-16)

9:00～21:00、12月29日～1月3日休館。

### CanDoの広報ツール

#### ○リーフレット—A3 三つ折り

配布可能な場所をご存じの方は、事務局までお知らせください。

#### ○ウェブサイト

資料室には会報のバックナンバーを保存しています。

#### ○ブログ「CanDo news」

マラウイでの活動の月間報告を投稿しています。ウェブサイトから入ってください。

#### ○facebook ページ

合計「いいね！」が634、フォロワー668。

■次号は2022年3月に発行の予定です。

#### CanDo アフリカ [第96号]

2021年12月25日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)

〒110-0001 東京都台東区谷中 2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

http://www.cando.or.jp/

facebook page:

http://www.facebook.com/candoafrica

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会